

領域	問題番号	出題のねらい	正答率の比較			
			46年度 正答率 (A)	52年度 正答率 (A)	差 (B-A)	
図形	③	1 (1)	柱体、すい体の理解	65.9	84.8	18.9
		(2)		65.1	78.7	13.6
	2	(1)	柱体、すい体の側面積	75.8	90.1	14.3
		(3)		71.8	83.5	11.7
	3	(1)	回転体の理解	62.0	76.4	14.4
		(2)		79.7	97.1	17.4
		(3)		46.7	57.4	10.7
	4	(1)	図形の形と大きさの理解	84.1	98.0	13.9
				71.2	92.0	20.8
		(2)		68.8	81.2	12.4
	5	(1)	縮図や縮尺の意味、縮小や拡大の作図	61.0	79.4	18.4
		(2)		74.6	91.9	17.3
		6 拡大		44.9	79.5	34.6
縮小			51.6	69.2	17.6	
④ 量と測定	1 (1)	長さ、面積、体積の単位の関係	27.9	41.0	13.1	
	5 (1)	角柱、円柱の体積	61.5	75.2	13.7	
	6 (1)	角柱の表面積	40.5	51.7	11.2	
⑤ 数量関係	1 (2)	比の意味	37.4	51.9	14.5	
	4	比例の意味	61.2	74.2	13.0	
	6 (1)	式、グラフの特徴	18.9	47.6	28.7	
			77.9	88.5	10.6	
	8 (1)	式の表す関係の理解	70.0	83.2	13.2	
11	確からしさ比べ	15.1	34.8	19.7		

③ では、6の拡大図の作図、4(1)の合同な図形の判別が大きな伸びを示している。そのほかの小問も着実に向上してきていることを示している。

④ では、円柱の体積を求める5(1)が一番大きな伸びを示しているが、領域全体としての伸びが低く、今後の指導法の改善が望まれるところである。

⑤ では、6(1)の $a \times 20 = b$ の関係をグラフに示す問題が大きな伸びを示しているが、正答率そのものは低いので、ていねいに点をプロットしていくという、最も基本的な考えをとりあげたりして、今後の指導のあり方を改善していくことが大切であろう。また、11の統計的確率を求める問題も伸びは大きいですが、正答率は4番目に低い。更に大きな成果を上げるための指導法の工夫が必要である。